

れんさい 監査の四季

第4回

江市代表監査委員
川中清司

地域が支えあう学校

太陽の季節7月、いよいよ夏休みです。子どもたちに思いきり野山を駆け回り自然を満喫させたい。

画一的な教育を反省して4月から学校週5日制が始まり、土曜日の有効活用も課題となっています。

少子化の時代。市内の小中学校の児童数は今、6155人で、この10年間で1200人以上も減りました。しかし、外国人による英語の授業や教育助手を付けたりして、明日の日本を担う子どもらの教育の充実を図っています。



平成13年度の市の教育予算は24億9千万円で、全体の約11%を占めます。

平成に入ってから、**学校や社会教育施設**に約170億円をかけ、整備しています。

惜陰小に15億9千万円、吉川小に13億2千万円。最近では河和田小に19億3千万円、中河小のプールに1億4千万円などです。

河和田小学校は玄関からすぐに多目的ホールがあり、市民と児童の交流の場に利用できます。久里洋二の「お椀の花咲く野」が緑いっぱい描かれ、どの廊下でも漆芸家のパネルや絵画が見られます。

給食は漆のお椀と箸で食べる。胸の名札は漆ぬり、河和田の地域の鯛の形。日頃から「うるしの里」になじませる配慮があふれています。

IT教室は通信衛星から情報が引けて、取り組む子どもらの目が輝いています。

「こんにちはー」、路上でも進んであいさつする子どもたちの声は大きくて明るい。学校は先生と家庭と**地域社会が支え合っています。**